

調査の概要

新発田市民健康・栄養実態調査の概要

1 調査の目的

新発田市民の栄養摂取状況及び生活習慣の状況を把握し、市民の健康づくりの推進を図るために必要な基礎資料を得る（＝市全体としての『食』の指標を持つ）ことで、援助の必要な個人の支援にとどまらず、市全体の実態に即した（根拠に基づいた）具体策を持って有効に働きかけることを目的とする。

2 調査の対象および客体

調査の対象は、クラスター（集落）抽出により無作為に抽出した世帯の世帯員で、平成26年11月1日現在で満1歳以上の者とした。

調査の客体は、新発田市全域から地区で層化して計34世帯を無作為に抽出。さらにその34世帯それぞれから最も近距離にある14世帯ずつ、計476世帯を調査対象とした。

（1）調査対象数及び回収結果

	全体	本庁	五十公野	松浦	米倉赤谷	川東	菅谷	加治	佐々木	豊浦	紫雲寺	加治川
地区	34	18	2	1	1	2	1	1	1	3	2	2
対象世帯	476	252	28	14	14	28	14	14	14	42	28	28
世帯員	1617	791	92	55	55	98	48	57	49	156	129	87
調査票回収世帯	308	158	16	8	8	21	11	10	10	31	19	16

（2）調査別回収結果

	栄養摂取状況調査	生活習慣調査	身体状況調査	歩数調査
対象数(人)	1617	1436	1436	1357
回収数(人)	674	771	733	404
回収率(%)	41.7	53.7	51.0	29.8

（3）調査別集計客体数

男女計	栄養摂取状況調査		生活習慣調査		身体状況調査		歩数調査	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
総数	674	100.0	771	100.0	733	100.0	404	100.0
1～14歳	76	11.3	-	-	-	-	-	-
15～19歳	31	4.6	33	4.3	33	4.5	-	-
20～29歳	28	4.2	49	6.4	43	5.9	14	3.5
30～39歳	36	5.3	58	7.5	50	6.8	23	5.7
40～49歳	71	10.5	95	12.3	92	12.6	59	14.6
50～59歳	92	13.6	124	16.1	115	15.7	67	16.6
60～69歳	148	22.0	180	23.3	175	23.9	131	32.4
70歳以上	192	28.5	232	30.1	225	30.7	110	27.2

男性	栄養摂取状況調査		生活習慣調査		身体状況調査		歩数調査	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
総数	314	100.0	369	100.0	349	100.0	179	100.0
1～14歳	41	13.1	-	-	-	-	-	-
15～19歳	15	4.8	16	4.3	16	4.6	-	-
20～29歳	16	5.1	26	7.0	24	6.9	6	3.4
30～39歳	20	6.4	32	8.7	27	7.7	11	6.1
40～49歳	34	10.8	51	13.8	49	14.0	27	15.1
50～59歳	35	11.1	54	14.6	48	13.8	25	14.0
60～69歳	72	22.9	90	24.4	87	24.9	60	33.5
70歳以上	81	25.8	100	27.1	98	28.1	50	27.9

女性	栄養摂取状況調査		生活習慣調査		身体状況調査		歩数調査	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
総数	360	100.0	402	100.0	384	100.0	225	100.0
1～14歳	36	10.0	-	-	-	-	-	-
15～19歳	16	4.4	17	4.2	17	4.4	-	-
20～29歳	12	3.3	23	5.7	19	4.9	8	3.6
30～39歳	16	4.4	26	6.5	23	6.0	12	5.3
40～49歳	37	10.3	44	10.9	43	11.2	32	14.2
50～59歳	57	15.8	70	17.4	67	17.4	42	18.7
60～69歳	76	21.1	90	22.4	88	22.9	71	31.6
70歳以上	111	30.8	132	32.8	127	33.1	60	26.7

3 調査項目および実施時期

(1) 調査項目

本調査は、栄養摂取状況調査、生活習慣調査、身体状況調査、歩数調査から成り、調査票及び調査項目は下記のとおりである。

1) 栄養摂取状況調査票 (満1歳以上)

ア 世帯状況

氏名、性別、生年月日、妊婦(週数)、授乳婦別、仕事の種類、日常生活活動強度

イ 食物摂取状況(1日)

料理名、食品名、使用量、廃棄量、世帯員ごとの案分比率(朝・昼・夕・間食別)

2) 生活習慣調査票 (満15歳以上)

食生活、身体活動・運動、休養(睡眠)、飲酒、喫煙、歯の健康等に関する生活習慣全般を把握した。ただし、飲酒、喫煙については満20歳以上。

3) 身体状況調査票

ア 身長、体重(満15歳以上)

イ 血圧 (満20歳以上)

ウ 腹囲 (満20歳以上)

4) 歩数調査票 (満20歳以上)

(2) 調査時期

調査 : 平成26年11月5日(水)~13日(木)

調査 : 平成26年12月10日(水)~12日26日(金)

の1日を定めて行った(日曜日及び祝日は除く)。

4 調査の要領

(1) 調査員の構成

調査員は、栄養士、保健師、看護師をもって構成した。栄養摂取状況調査については主として栄養士、保健師が担当し、身体状況調査については看護師、保健師が担当した。調査内容の標準化、質の確保のため、事前研修会を全調査員に実施した。

(2) 調査の方法

1) 栄養摂取状況調査、生活習慣調査

調査 : 事前に被調査世帯へ調査依頼と調査票を郵送した。

後日、調査員である栄養士、保健師が世帯を訪問して、栄養調査票等の記入方法の確認と回収を行った。

調査 : 被調査世帯へ調査依頼を郵送した。

後日、調査員である栄養士・保健師が世帯を訪問して、調査票を持参し記入方法を説明した。調査票は返信用封筒で郵送による回収を行った。

2) 身体状況調査

調査用紙回収の際、血圧計・体重計・メジャーを持参し測定を行った。(身長については自己申告可。)調査においては、昼間不在の者を対象に、夜間、同日に各地区の公民館等にて身体測定を実施した。

3) 歩数調査

訪問時に歩数計[TANITA(PD-641)]を配布、調査方法の説明を行った。結果は後日電話で聞き取りをした。歩数計が国の指定機種と異なるため、歩数の数値を補正し算出した。

(3) 調査に関する秘密の保持

この調査は、食事状況等について具体的な情報を取り扱うことから、被調査者に関わる情報を適切に取り扱い、その個人情報保護するものとする。

(4) 調査の分析

- ・栄養素等摂取量の算出には、「食事しらべ 2014」を使用した。
- ・サンプルの年齢構成の影響を取り除いて比較するため、平成 17 年国勢調査全国総人口を基準人口とし、年齢調整値を算出した（平成 21 年新発田市民健康栄養実態調査において、同じ基準人口を使用）。
- ・10 歳階級で直説法により調整したが人数が少なすぎる場合は、複数の年齢階級を併合した。
- ・年齢調整値、標準誤差の算出、調査結果の解析については国立保健医療科学院 横山徹爾氏より指導助言いただいた。

5 分析の焦点（調査をするにあたっての仮説）

新発田市の脳卒中年齢調整死亡率が下がらないのは、高血圧 喫煙 耐糖能異常 多量飲酒が原因ではないかと推測されている。平成 21 年調査では 6 つの仮説について分析し、得られた結果に基づいた事業展開をしてきた。平成 26 年調査では、さらに 6 つの仮説のデータの推移を把握するとともに、知識、意識、行動の面からも分析を行い、脳卒中予防対策につなげていく。

(1) 肥満者（BMI 25 以上）が多い

男性は 40 歳代、女性は 60 歳代で肥満の割合が高い傾向にあるのではないかと。背景に過食、運動不足、健康に関する意識の低さがあるのではないかと。

(2) 食塩摂取量が多い（1日 10g 以上）

塩分摂取量が減少しているのではないかと。知識はあるが意識と行動は伴わないのではないかと。減塩行動にハードルが多いのではないかと。

(3) 野菜摂取量が少ない

野菜摂取量が 1日 350g に満たないのではないかと。野菜を 1日 350g 以上摂取する人が増えているのではないかと。若い世代に野菜摂取が不足しているのではないかと。

(4) 喫煙者が多い

喫煙者の割合は減少しているのではないかと。若い世代では喫煙者の割合は変わらないのではないかと。

(5) 多量飲酒者（1日 3合以上）が多い

適正飲酒する人が増加しているのではないかと。男性の飲酒習慣者は知識不足があるのではないかと。

(6) 運動不足者（運動習慣なし）が多い

60 歳代以上では運動を心がける人が増加しているのではないかと。働き盛り世代では知識があり意識も高いが、行動が伴わないのではないかと。

以上の仮説の正誤性を確認し、今後の数値目標設定の根拠とするため調査を実施した。